

■江木鰐水 福山藩で子弟教育に奔走して幕末の難局に対処し、維新後は悠悠自適の晩年を送った。

えぎがくすい

・ ・ ・ ・ ・ 1810＝ 安芸国豊田郡戸野村で、孝子として表彰された福原貞章の第三子に生まれる。

・ ・ ・ ・ ・ 1815＝ 5歳：父が死去。

水野忠成老中1818＝ 8歳：

群書類従完結1819＝ 9歳：

シボ^{シボ}朴来日・ 1823＝13歳：母の実家の医師藤井玄好の知人で福山藩医の五十川菽齋に師事して医を学び始め、

ついで、西条の儒家で仁医としても高名だった野坂完山に入門、

福山に戻って、菽齋とその子から医を学ぶうち、

シボ^{シボ}朴事件・ 1828＝18歳：備中笠岡の小寺葵園塾で関藤藤陰と出会って、儒者を志しはじめ、

シボ^{シボ}朴追放・ 1829＝19歳：見込まれて、菽齋の娘の婿となり、菽齋親戚でかつて福山藩主水野家侍医だった江木家再興を担うも、

富籤流行・ ・ 1830＝20歳：妻が死去。妻の姪が継室となる。 _発奮して上洛し、頼山陽に入門、

富嶽三十六景1831＝21歳：山陽から名?・字晉戈を与えられる。

鼠小僧磔・ ・ 1832＝22歳：この年からの日記が残り、上洛中の古賀穀堂を嵐山花見中の頼山陽のもとに連れて、双方から喜ばれるなどするも、山陽の病状が悪化、そこへ菽齋危篤の報が入って帰藩したため、 _山陽の最期を看取れず、

天保大飢饉始1833＝23歳： _山陽の親友・大坂の篠崎小竹に入門、

滑稽+人情本 1835＝25歳： _江戸に出て、古賀穀堂の子?庵に入塾し、代講までつとめ、かたわら、清水赤城に長沼流軍学を学び、研究のため各地の古戦場や城郭を訪ねる。

・ ・ ・ ・ ・ 1836＝26歳：この年、阿部正弘が福山藩主となると、

大塩平八郎乱1837＝27歳：*福山藩重役内藤景堅に従って菅茶山の墓に詣で、「立志之説」を起草後、藩校(弘道館)教授を命じられる。

天保改革始・ 1841＝31歳：十人扶持の御儒者となり、大目付触流し格となる。

順天堂始・ ・ 1843＝33歳：この年、 _藩主阿部正弘が幕府老中となり、

天保改革終・ 1844＝34歳：「山陽頼先生行状」。 _{弘道館}教習の法の改革を命じられる一方、私塾に入門者が始まる。

阿部正弘首座1845＝35歳：能島流船軍法による操練を見学。蘭方医坂上ト安・寺地強平との親交始まる。 _正弘が老中首席となると、

孝明天皇・ ・ 1846＝36歳：琉球沖に英・仏船が来航の報を受ける。 _蘭学御用を任じられるとともに、海岸防御の意見を求められ、

・ ・ ・ ・ ・ 1847＝37歳：*「操練仕組み書」執筆を命じられ、実地に視察・観閲し、正弘から直書が届いた後、功で褒美を受ける。

・ ・ ・ ・ ・ 1848＝38歳：内藤景堅宅を皮切りに、藩重役宅を回って、「西洋海上砲術全書」を会読。藩をたよってきた高島秋帆の下僕や来宿した備中の阪谷朗廬らによる操練を主導し、褒美を賜る。

国定忠治磔・ 1850＝40歳： _「軍者の場心得」を命じられ、

尊徳報徳論・ 1851＝41歳： _{弘道館}に出勤せずに軍備関係書執筆に専念するように命じられ、私塾への入門者も急増。

ペリー来航・ 1853＝43歳：山路機谷が開いた大詩会(未開牡丹詩集)のとりまとめ役を務める。 _ペリー来航に、江戸出府を命じられ、

開国開港・ ・ 1854＝44歳： _藩主阿部正弘直属の江戸表奥勤めとなり、プレーンの一人になるが、

安政大地震・ 1855＝45歳：*阿部正弘が老中首席を降りたことから、福山誠之館の開校にあわせて洋学寮教授となり、以後専念。

蕃書調所・ ・ 1857＝47歳：この年、阿部正弘が急逝。

桜田門外変・ 1860＝50歳：

禁門の変・ ・ 1864＝54歳：幕府による長州征討布告で、福山軍屯営地検分を命じられ、

薩摩藩士密航1865＝55歳：第二回長州征討軍のため、地形調査を命じられる。

明治維新・ ・ 1868＝58歳： _長州勢の来襲に備え、一家をあげて福山城に入り、修築などするうち、藩が薩長と講和したため、一転して官軍となり、箱館五稜郭の征討に向かい、

戊辰戦争終・ 1869＝59歳：*東京に凱旋。この間、多くの戦記・報告書を残す。

_以後、花鳥風月を楽しみながら、悠悠自適の生活を送り、

明治6年政変 1873＝63歳：

明治14年政変1881＝71歳： _没した。

「人づくり風土記(広島)」、